



深田久弥

山の文化館だより

平成28年
秋号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (0762) 721-3311
FAX (0762) 721-1181

作家と山 日本文学百名山 石川近代文学館で開催中 11月27日まで



「作家と山 日本文学百名山」が九月十七日から十一月二十七日まで、金沢の石川近代文学館で開催されています。当館から何点かの収蔵品が貸出されています。場所は金沢市広坂の旧県庁や二十一世紀美術館のすぐ近くです。

二階へ上がると先ず目に入ってくるのが写真家国定雄一氏撮影の白山の数々。四季を通しての白山で、国定氏は山の文化館でもお馴染みの木村芳文氏に影響を受けて写真家になられたそうです。美しい白山でした。

そして次の部屋にありました!!山の文化館で並べられていた深田久弥さんの自筆の原稿や愛用の品々が、品よく美しく、調和のとれた形で展示されていました。

た。見知らぬものや見覚えのあるものの中に、最後の登山に使った杖が展示してありました。少し痛々しい気持ちで見つめてしまいました。自筆の原稿はもとより、俳句の短冊もいくつか掛けられ、九山の号や久弥と記したものもありました。いずれも貴重なものばかりで、じっと見入っていると久弥さんにより近づけるような気がしてくるから不思議です。写真で見る日本百名山紀行も国定雄一・久江さんによるもので本の中より抜粋された文章も加えられていてとても良く、見ごたえのある展示です。ぜひ皆さんも一度は足を運んでみて下さい。大聖寺から金沢へ旅されている久弥さんに懐かしくお会いできた様な気がしました。

これを機会に当館でもさらに魅力ある展示を心がけていきたいと思えます。



One Hundred Mountains of Japan 英訳 マーティン・フッド

去る十月十六日、山の文化館で英訳者マーティン・フッドさんにお話しをして頂きました。

日本での山登り、そして翻訳を通して出会った人々とのお話で、深田久弥の故郷で講演という記念すべきものでした。

フッドさんはスイス在住の銀行家で、留学時代、日本勤務時代に、四季を通じて、多くの日本の山にも登られた方です。

英訳本「One Hundred Mountains of Japan」は、ただ『日本百名山』が英訳されているだけではなく、序論では、深田久弥の生涯を、山と文学を通して紹介すると共に、古来より近代登山にいたるまでの日本人の山への関わり方を紹介している。また、人名事典もあり、『日本百名山』に登場する人物をほとんど紹介している。と書評にある。この本は、英国山岳会の機関誌にも紹介され、日本の山とその背景を世界に広く紹介するものになっている。我々としては、序論の日本語訳が出ることを期待したい。英語で読まれる方は深田久弥山の文化館で販売していますのでご利用ください。また、書評などは、日本山岳会の会報「山」に詳しく書かれていますので、興味のある方は深田久弥山の文化館へお越し下さい。

銀杏の四季

不惑新道から火燈古道を下る

能美市 川越 裕子

三年前の昭和の日、石楠花を見に行こうと富士写ヶ岳へ友人夫妻と夫の四人で出かけた。

大内登山口から入り気持ちはルンルンだったが、久しぶりの山歩きは身体にこたえ休憩していると、後から追いついた男性も腰を下ろした。福井から来たという彼と話しているうち不惑新道に話が及んだ。前年山の文化館で、新しい登山道ができ縦走も出来るようになったとコピーも貰っていたが、少し時間がかかると敬遠していた。だが、彼はすごく簡単そうに話している。頂上から出発する時になって四人の頭に先ほどの男性の言葉が浮かび、それでは新しい道を辿ろうと意見が一致した。どんな道だろうと期待しながらの下りは厳しい急坂の連続で、小倉谷山への上りに取りつくまでは「下りはともかくこの道を登るのはゴメンやね」が女二人の感想だった。しかし、ここからはタムシバの乱れ咲く山道が続く、小倉谷山では「三角点名伏拝」の道標に、昔白山に登れない人はここまで来て白



山を遥拝したのでだろうか、と、前の山並みからほんの少し覗かせる山頂を望みながら白山信仰に想いを馳せた。ここから火燈山にはほんの少しで着く。火燈山を下り始めてすぐ、両脇には石楠花が続く大内登山口まで楽しい山道だった。

その翌年、あれだけ「登るのは嫌だ」と言っていた火燈古道から不惑新道を四人は富士写ヶ岳へ向かっていった。前年沢山あったあの石楠花が我々を呼んだのだ。登山道脇はまさに累々とピンクのうねりが押し寄せていた。そのうねりは果てしなく続くかと思われるほど見事と思わずため息を洩らしたほどだ。この年ほどの山も石楠花が素晴らしかったと後で聞いたが、あの光景は今も鮮明に脳裏に残っている。

間こいう会予定

十一月二十日

「深田久弥の足跡探訪」

講師 高辻 謙輔

平成二十九年一月十五日

「山の暮らしと現在の活動について」

講師 林 昌則

平成二十九年二月十九日

「加賀茶の歴史と取り組み」

講師 吉田 和雄

*詳細はホームページをご覧ください

田中陽希さん講演会の報告

去る十月九日、市民会館において開催された講演会には多くの方々に参加をしていただきました。また、田中陽希さんには、質問に丁寧に答えて頂き、写真を撮るなど和やかな雰囲気の中に無事終了しました。有難うございました。

編集後記

待ちに待った白山に雪化粧が見られました。やはり白山には雪が似合いますね。
文化館だよりも楽しんで読んでいただけるよう情報を集め伝えていきたいと思えます。館の見所の銀杏も少しずつ黄葉してきています。是非足を運んでみて下さい。